

# がんの早期発見につながる 新しい内視鏡技術 NBI 内視鏡システムを導入！

NBI 内視鏡システムとは、青や緑などの短い波長の光を照射する診断システム。  
短波長の光は消化器の粘膜表層の血管を鮮やかに浮かび上がらせる性質があり、  
腫瘍しゅようなどの早期発見きょうたいいきこうかんさつに利用される狭帯域光観察内視鏡システムです。

消化管の病変、特に早期がんでは、まず粘膜表面の毛細血管に変化が現れます。活発に増殖を繰り返すがん細胞は、栄養を運ぶ血液を多く必要とし、病巣には血管が増えていきます。

NBIは、この違いを内視鏡で観察することにより、これまでであれば見逃してしまっていたような極小のガンを早期に発見することができる画期的な方法なのです。例えば、食道や胃などの上部消化管では、咽頭がんや喉頭がん、早期食道がん。大腸では平坦型病変などの前がん病変の発見に有効です。



### NBIの原理と有用性

● NBIとは

## NBI = Narrow Band Imaging

狭帯域化された2つの波長(415nm、540nm)を用いることにより、  
**粘膜表層の血管の走行状態・微細模様**が強調表示される技術です。

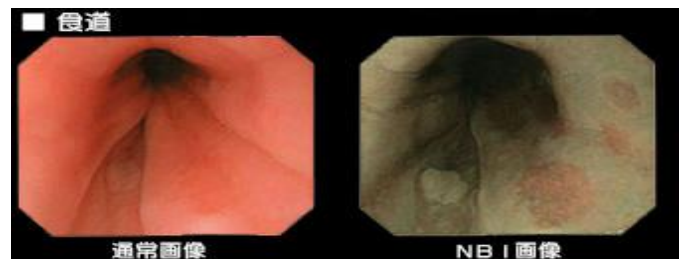
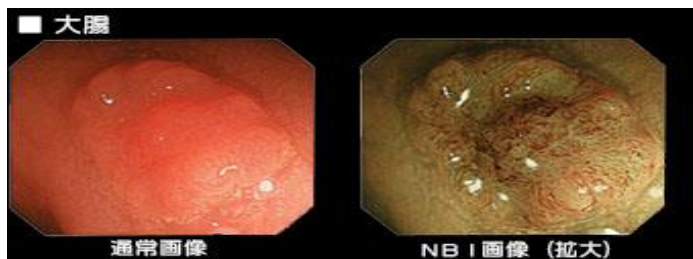
粘膜表層の毛細血管

粘膜下組織内部の血管

実際のモニター上での見え方



対象の部位も「食道」「胃」「十二指腸」「大腸」など、幅広い領域でNBIを使うことができます。



がんが早く見つければ、大きな手術をせずに内視鏡で取り除ける可能性が高くなります。しかし、初期のがんは自覚症状がほとんどありません。早期発見のためには、自覚症状がない段階でも定期的に検診を受けることが重要です。当診療所では最新のNBI内視鏡技術を用いて、早期発見・早期治療でサポートします。